

奈良県立大学情報誌

# コモンズー学びの共同体ー

1. 奈良県立大学地域創造データベースがいよいよ年内に公開予定！
2. 「高山 竹あかり」広報活動に県大生が活躍
3. 情報コーナー



文部科学省

地(知)の拠点

# 奈良県立大学地域創造データベースがいよいよ年内に公開予定！

ここでは、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」で採択された「地学連携と学習コモンズシステムによる地域人材の育成と地域再生」の事業として附属図書館で試験公開している奈良県立大学地域創造データベースについて、その役割、これまでの取り組み、検索システム、今後の予定等を紹介いたします。



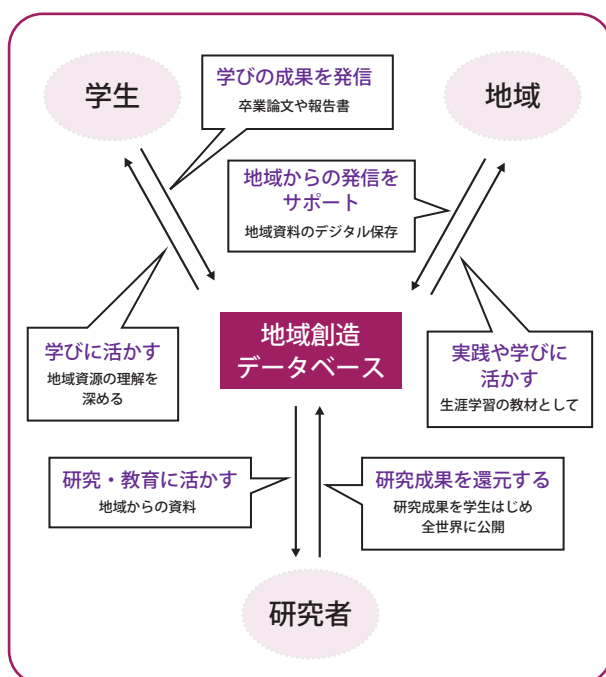
## 1. 地域創造データベースとは？

本学では全学的な教育改革に取り組み、新たな教育システムとして、フィールドワークを重視

した実践的教育、ゼミ教育を中心とする「学習コモンズ制」を導入しました。

この教育システムでは「観光創造」、「都市文化」、「コミュニティデザイン」、「地域経済」という4つの領域のコモンズ（学習共同体）を設け、各コモンズは、連携する市町村において地域を志向した教育・研究・社会貢献に取り組んでいます。

そして、この全学的な教育改革の一環として、附属図書館では各コモンズで取り組んだ研究や学習の成果と地域資料を収集、整理、保存して学内外に公開するためのデータベースシステムの構築を進めてきました。このデータベースシステムが「奈良県立大学地域創造データベース」（以下、データベース）です。



〈奈良県立大学地域創造データベース概念図〉

## 2. これまでの取り組み

これまでの取り組みとしては、データベース構築に先行し、附属図書館1階に「地域創造データベースコーナー」を設置しました。ここには、学生が所属コモンズを決める際の参考として、また、本学のコモンズについて地域の皆さんに知っていただくために、各コモンズの担当教員がセレクトした図書を並べています。

そして、昨年度から検討を重ねてシステム設計したデータベースについて、本年度にその機器の調達やシステムの構築に取り組み、ようやく10月1日から試験的に附属図書館内で公開することとなりました。具体的には、地域創造データベースコーナーにデータベース閲覧用のノートパソコンを3台設置し、サンプルデータを閲覧していただけるようになっています。

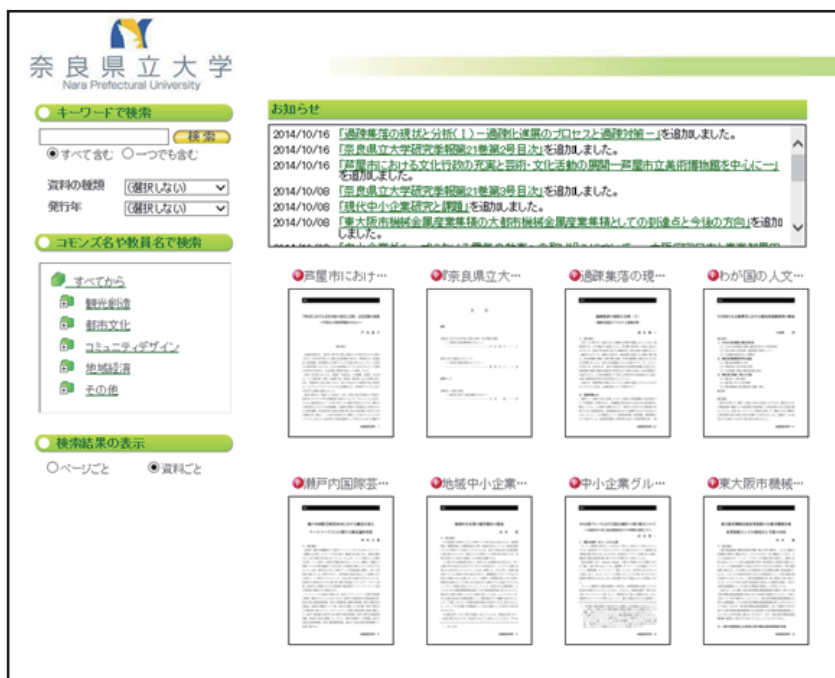


〈各コモンズ担当教員がセレクトした図書〉



〈データベース閲覧用パソコン〉

### 3. データベースの検索方法について



さて、10月に試験公開しましたデータベースの検索方法は大きく分けて2つあります。

1つはキーワードで検索する方法です。この検索方法では、データベースに登録されたコンテンツを全文検索することができます。また、資料の種類や発行年によって絞り込むこともできます。

もう1つはコモンズ名や教員名で検索する方法です。この検索方法では、コモンズごとに関係するコンテンツを一覧すること

ができます。さらに、各コモンズに所属する教員名で絞り込むことで、その教員に関するコンテンツを一覧することができます。このような2つの検索方法で、各コモンズで取り組んだ研究成果、学習成果を閲覧することができます。

### 4. 今後について

現在、このデータベースは附属図書館内で試験的に公開していますが、年内にWEB上に公開する予定です。また、コンテンツについて、現状では本学が発行した研究紀要が中心ですが、今後、各コモンズで取り組んだ研究成果、学習成果や、デジタル化した地域資料を登録する予定です。そのコンテンツのデータはテキストのみならず、画像や動画も想定しています。各コモンズでの活動の充実が、データベースのコンテンツ充実につながり、学内外で活用されるデータベースとなることを目標に、全学的な体制で取り組む予定です。

(附属図書館 尾松 謙一)





## 第18回「高山 竹あかり」の広報活動に 奈良県立大学生が活躍

### 「高山 竹あかり」

室町時代から 500 年ほどの歴史をもつ茶釜づくりをはじめ、茶道具、編針など、竹を原材料とした工芸品を地場産業とする生駒市高山地区では、毎年秋に「竹」や「あかり」をテーマとした「高山 竹あかり」が開催されており、今年で 18 回目を迎えました。

10 月 10 日、谷村実行委員長と山下市長の挨拶の後、茶釜を模した造形物に点灯が行われ、3 日間のイベントの幕が開けられました。そして、松本太郎さんの尺八演奏が流れる中、竹の造形物や行燈に火が灯され、幻想的な空間が広がっていきました。

大きなお椀でいただく円楽大楽茶・生駒市茶道協会によるお手前・生駒市中学校茶道部による野点などのお茶会、茶杓・竹箸削り・編物・茶釜の上編み・竹馬づくりなどの体験教室、高山ミステリーハイク、オカリナコンサート、パネルシアターなど様々な催し物も行われ、来場された皆さんは高山の魅力に触れることができたのではないのでしょうか。(安井)

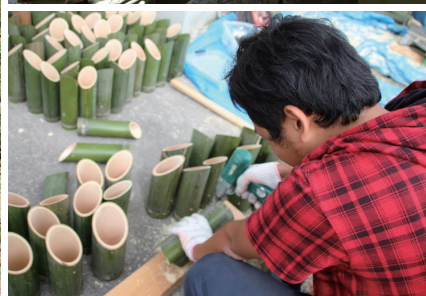
### 県大生による「高山 竹あかり」広報活動

今年、高津専門ゼミと神吉基礎ゼミの学生が、第 18 回「高山 竹あかり」の広報活動を担当しました。4 月から 10 月にかけて、学生が主体となり、「高山 竹あかり」に関わる方々に高山地域や伝統工芸への想い、イベント準備の様子についてインタビューを行い、Facebook ページ「高山 竹あかり」に記事を掲載して、情報を発信しました。

インタビューするのも記事にまとめるのも初めての経験で最初は緊張しましたが、皆さんの想いや高山の文化に触れ、私たち学生も「高山 竹あかり」への期待がふくらみました。

イベント当日、来場者から「Facebook ページを見てイベントに来た。」、イベント関係者から「学生たちの姿から良い刺激をもらった。学生のおかげで例年に比べて気合が入った。」という声をいただき、また例年より来場者が多かったと聞き、広報活動の効果があったのではないかと嬉しく思っています。(山崎)





## 制作現場取材しました

「高山 竹あかり」に設置される竹の造形物は、美術家の川井ミカコさんのデザイン画をもとに、茶筌生産協同組合、茶道具同業組合、編針工業協同組合の職人さんたちが、ひとつひとつの作品に心を込めて制作されたものです。竹は時間が経つと変色するという特性があり、本番直前でなければ造形物づくりにとりかかることができないた

め、イベントの数日前に丸一日かけて一気に作り上げられます。今年は、奈良県立大生も制作を少しだけ手伝わせていただきました。

職人の皆さんは、普段はそれぞれの分野の仕事をされていて、造形物づくりは専門ではありません。イベントが始まった当初は慣れない作業にとっても苦労されたとお聞きしました。しかし、そんな作業も今年で 18 回目。今では慣れた手つきで作業を進められていました。(安井)



## 「高山 竹あかり」をつくっているのはこんな人たち

ここでは、Facebook ページ「高山 竹あかり」にインタビュー記事を掲載した 12 人の中から 5 人を取り上げ、記事の内容を簡単にまとめた上で、取材を行った学生の感想を載せています。

Facebook ページ「高山 竹あかり」もぜひご覧ください。

《QR コード》



今回取材させていただいた 12 人の方たち

- 第 1 回 高山竹林園 主査 久保建史さん
- 第 2 回 生駒市観光ボランティアガイドの会会長 今西正道さん
- 第 3 回 美術家 川井ミカコさん
- 第 4 回 茶道具同業組合 奥田由英さん
- 第 5 回 茶筌生産協同組合 久保恭典さん
- 第 6 回 編針工業協同組合 谷村喜英さん
- 第 7 回 生駒市 山下真市長
- 第 8 回 尺八奏者 松本太郎さん
- 第 9 回 ケーナ・オカリナ奏者 井上暁さん
- 第 10 回 茶道協会会長 堀口陽順先生
- 第 11 回 クリエイティブ・イントロデューサー 山本あつしさん
- 第 12 回 生駒北中学校校長 本田善藤先生



生駒市 高山竹林園 主査 久保建史さん

「生駒市高山には豊かな歴史と自然に恵まれた『日本のふるさと』の原風景が残っています。

高山竹林園はそんな高山で育まれてきた伝統産業の発信の場所、そして地域の魅力を再発見する場所でありたい。」と語る久保さん。

心のふるさと、高山。この場所で日々仕事をされている久保さんからは、自身を育ててくれた土地でもある高山への熱い想いがあふれていました。取材をするまで知ることができなかった伝統をつくり支える人々の想いを、まだ見ぬ人々へと伝えていきたいと強く感じました。(高木)



編針工業協同組合 谷村喜英さん

「高山は、探せばたくさんの宝物が出てくる地域です。古くから茶筌や茶道具等の竹細工を中心に工芸の里である高山に、最近、竹以外の素材で物づくりをされる方が生まれたり、移り住んでこら

れています。その方々と竹の職人さん、作家さんたちの連携を深めていけば、新しい高山の姿が見えてくるのではないのでしょうか。伝統産業を大切にしながら、地域資源を再発見することで新しい産業を生み出す。そうやって高山の伝統は形を変えながら続いていくと思います。」

高山の魅力、今後の高山の伝統産業について熱く語っていただきました。伝統を大切にし、そこに新しい風をいれて、高山を盛り上げるという話に聞き入りました。今後の高山がどのように盛り上がるのか注目したいなと思いました。

(徳永)





茶釜生産組合 久保恭典さん

「イベントでは、川井ミカコさんのデザインを形にするため、竹を切って、割って、曲げてと、様々

な技術と知識を駆使して造形物をつくりました。竹を扱うプロだからこそできる造形物の数々を見てもらって、高山で続く竹の文化を感じてもらえたなら幸いです。」

実際にこの目で見て、普段イメージしている竹の形とはかけ離れた造形物の数々に、プロのこだわりと凄さを目の当たりにしました。そしてそれらの造形物は竹あかりに照らされて、幻想的な風景で自分たち、そしてお客様を楽しませてくれました。（藤崎）



茶道具同業組合 奥田由英さん・易久子さん

「私たちは注文が来たら商品をつくっています。ほとんどは茶杓で、茶碗の大きさに合わせたり、お茶教室用に寸法を合わせたりしています。茶杓は表部分だけでなく、裏部分にも細

工を施しています。だから、どの大きさの茶杓も棗（なつめ）の上に乗るんですよ。」と、60cmほどもある大きな茶杓を小さな棗の上に置いて語る、奥田さん。

奥田さんの家の中には工具、裏の倉庫には竹がたくさん並んでおり、竹細工の伝統工芸師の生活を近くに感じることができました。竹を扱う難しさや高山茶道具の伝統、ご自身の半生など様々なことを教えてくれました。ほとんどの商品がオーダーメイドだということに驚き、茶杓一つ一つに奥田さんの想いや工夫が詰まっているのだと思いました。茶道具の遍歴や現状を知れ、興味深い取材になりました。（長沢）



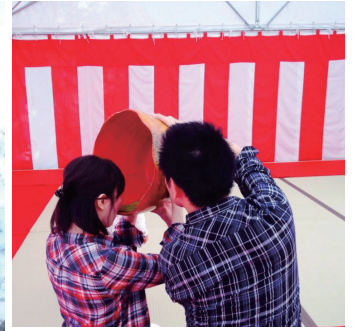
茶道協会会長 堀口陽順先生

「竹あかりでは、お客様に実際にお茶の体験をしていただいたり、大きな器を複数の人で回し飲みする大楽茶（おおらくちゃ）の体験をしてい

ただきました。この体験を通じて、茶をたてる時の音や畳の部屋のように、茶道独特の雰囲気を感じてもらえたのなら嬉しいです。」

実際にお茶をたてていただき、自分たち広報班もお茶の体験をさせていただきました。その中で味わったのは、日常生活では体験できない、茶道の中でしか味わうことのできない雰囲気でした。今回のイベントで、自分自身茶道について以前よりも興味を持てるようになり、また、茶道がより多くの人に関心を持ってもらえたら、と思いました。（藤崎）

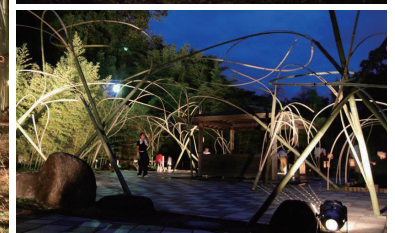
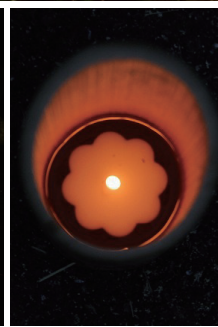
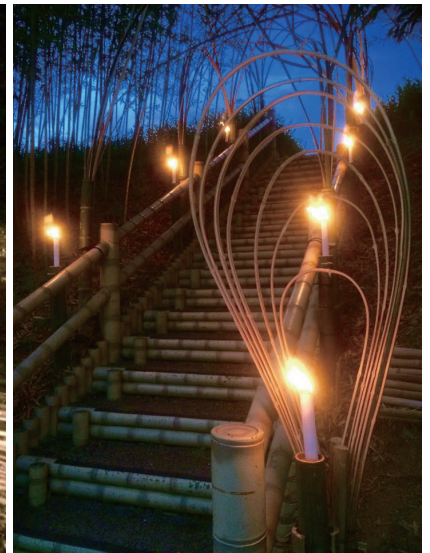
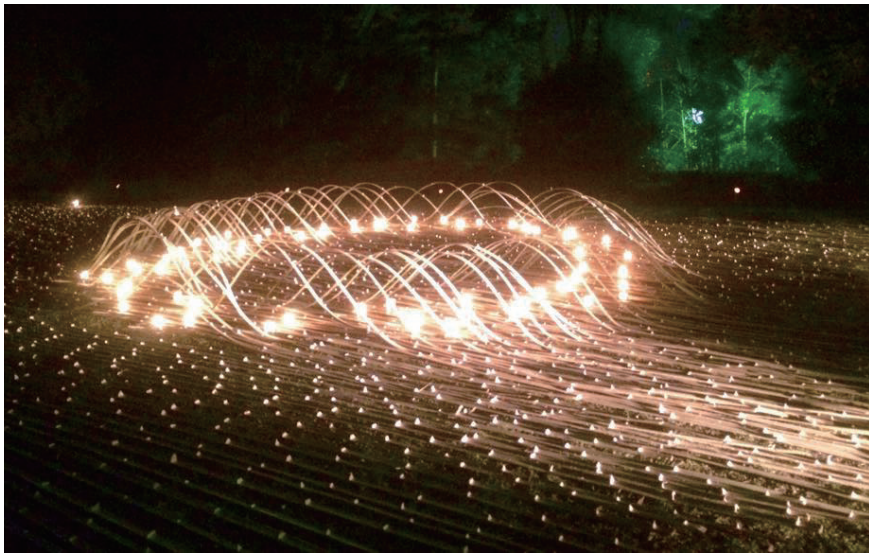




## 第18回「高山 竹あかり」







写真撮影：  
山本あつし・高津融男・奈良県立大生



## 第18回「高山 竹あかり」を 振り返って

第18回「高山 竹あかり」は無事に全日程を終え、生駒市民はもちろん、県外からもたくさんの方が来場されました。

今年は広報活動に関わった高津専門ゼミ・神吉基礎ゼミ生の他にも、点灯スタッフとして多くの奈良県立大生が参加しました。その様子を見て、例年とはまた少しちがった活気あるイベントになったと話す関係者の方も。

そこで、「高山 竹あかり」実行委員会の3名の方に、イベントを振り返り、学生がイベントに関わるという新しい取り組みに対する思いや来年度に向けた意気込みなどをお話いただきました。(安井)



第18回「高山 竹あかり」実行委員長  
谷村佳彦さん

今年は奈良県立大学、奈良芸術短期大学の二つの大学と連携し、Facebookでの情報発信やポスター制作等、広報活動に力を入れました。その効果があっただけでなく、今年は若い世代の方々がたくさん来場してくれたんです。遠方から来られた方もいて、広報活動の効果が非常に大きかったですね。

組合の皆さんも、若い世代の方と一緒に活動することで刺激をもらえていたと思います。制作の際にも学生の皆さんが取材に来てくれて、非常に活気がありました。

「高山 竹あかり」に来ていただいた方たちに、伝統産業の魅力を感じてもらえたのではないのでしょうか。これをきっかけに、伝統産業を受け継ぐ若者が生まれたら嬉しいです。



「高山 竹あかり」美術プロデューサー 川井ミカコさん

まず18回目の「高山 竹あかり」が何事もなく無事に終わってほっとしています。

今回から奈良県立大学の皆さんに広報という形で関わって頂く事で、今まで届かなかった所へ情報が届いたと実感しています。ありがとうございました。

そしてその関わりは地元の職人さんをはじめ、このイベントにずっと関わっている人達の中にフレッシュな空気をもたらしイベント全体の方向に大きな力になっていると感謝しています。来年の「高山 竹あかり」も開催が決定しました。今後ともよろしくお願いいたします。

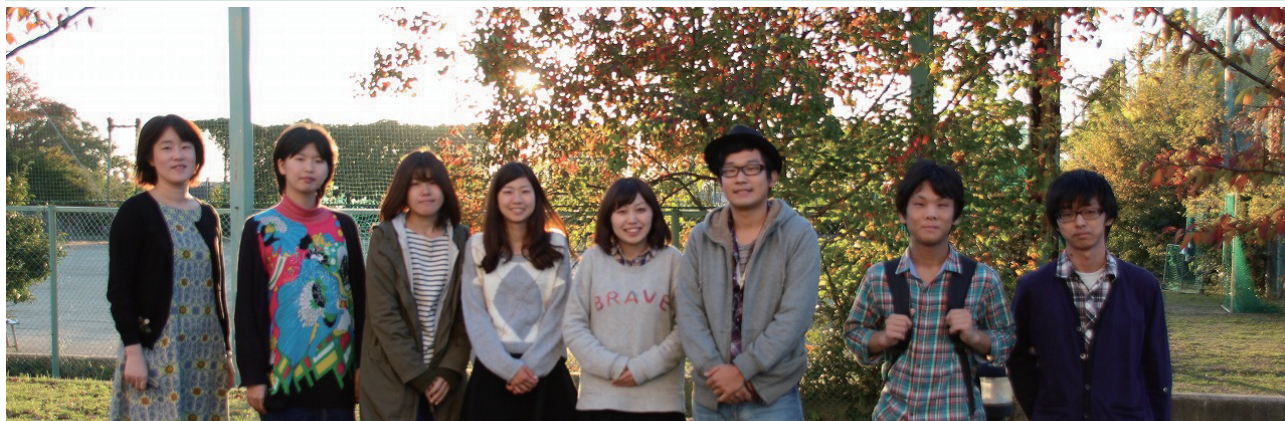


「高山 竹あかり」広報プロデューサー 山本あつしさん

「高山 竹あかり」との出会いは昨年。秋の夜、静かな竹林に浮かび上がる幽玄な風景に、ただ心奪われました。そしてこれが地元の美術家と竹製品のつくり手、その他多くの有志の連携から生み出されているということを知り、もっとたくさんの人にその素晴らしさを伝えたいと思ったのでした。この世界は素晴らしいものに満ち溢れているのに、僕たちはそれを見逃しているだけなのかもしれない。それをいかに見つけて伝えていくのか。今回、広報に協力してくれた学生のみなさんと、これからも一緒に探していければと思います。



## 広報活動を終えて



何より嬉しかったのは、高山の方々とのつながりができたことです。知らない場所に足を踏み入れることは不安もありますが、あたたかく迎えてくださった高山の方々のおかげで、少し前まで知らなかった「高山」地域がすごく思い入れのある場所になりました。今後も、私たち3回生をはじめとする県大生と高山地域の方々のつながりを大切にしていきたいです。

(3回生 山崎 晴香)

初めて広報活動を行ってみて、読者に文章で魅力を伝える難しさを知りました。たった一文でも書き方によって、読みやすさや伝わり方が変わります。文章作りには苦戦しましたが、Facebookでコメントやいいね！を頂けた時の手ごたえは自分を成長させてくれました。ヨソモノである私たちをあたたかく受け入れてくださった高山地域の方々にとても感謝しています。

(3回生 長沢 茉祐)

奈良に住んでいながら知らずにいた高山の伝統産業、そして「高山 竹あかり」の世界はとても広く、大きな出会いとなりました。それと同時にこのような素晴らしいものが広く知られていないことを悔しく思い、広報として人に伝えることの大切さを実感しました。

(3回生 高木 路子)

「高山 竹あかり」の広報活動に携わることで、高山の伝統産業と高山に住むひとの素敵な魅力を発見することができました。取材や広報の作業では大変なこともありましたが、すべて自分のためになったと思います。

(3回生 安井 笙子)

竹あかりの広報活動に約半年間関わって、高山についての魅力を多く学ぶことができました。その中には、実際に関わらなければわからなかったこともありました。広報活動の途中ではくじけそうになることも多かったですが、その分イベントの達成感も大きいものとなりました。このイベントに関わることができて本当に良かったと思います。

(3回生 藤崎 康平)

広報活動に関わるまでは、高山の伝統産業のことは知りませんでした。広報活動を通して、高山の伝統産業それぞれに関わってる方、川井さん、山本さんと出会うことができ幸せです。そして何より広報活動を通して日本の、高山の伝統産業について知り、深く関わることでよかったです。

(3回生 徳永 裕也)

5月にこのイベントの事を知り、およそ半年間に取材やボランティアをさせていただきました。写真を撮りながら、幻想的な竹あかりの風景と、素晴らしい演奏に心を洗わせて頂きました。

(1回生 高田 智博)

ゼミ活動の一環としてこのイベントに関わり、高山という地域、そこに暮らす住民について多くのことを知ることができました。このイベントが高山の魅力を発信する場として、これからも続いて行けるようにするにはどうすればよいのか、地域のことを考えるよいきっかけとなりました。

(1回生 出口 栄美)

## 斑鳩町と奈良県立大学が 包括的連携協定を締結しました



協定書調印式のもよう  
小城利重斑鳩町長(右)と伊藤忠通学長(左)

まちあるきMAP」(斑鳩町オフィシャルマップ)の作成等に携わってきました。この度、包括的連携協定を結ぶことによって、同町における本学のフィールド活動が、これまで以上に地域に根ざした、より活発で継続的な取り組みとなることが期待されます。

平成26年7月17日、斑鳩町と本学が包括的連携協定を締結し、その調印式が本学の協働サロン(3号館1階)において執り行われました。

本学は、昨年より、法隆寺周辺にある三町地域の商店街の活性化イベント「常楽市」の開催や、吉田寺を会場とした婚活事業(寺社での婚活イベント)の企画運営、ならびに「斑鳩ま



「斑鳩まちあるきMAP」  
(斑鳩町オフィシャルマップ)

## コモンズ掲示板とレターラックを設置しました

本学1号館1階入り口に、各コモンズ担当教員作成のコモンズレターを取り置いたパンフレットラック、ならびにコモンズの最新情報がわかる専用掲示板を設けました。コモンズに関するイベント情報、コモンズツアー情報、学生募集案内など、フレッシュな情報をお届けしたいと考えています。コモンズの情報源として是非お役立てください。なお、コモンズレターは4号館1階の地域交流室前のパンフレットラックにも置いています。



奈良県立大学

Nara Prefectural University

地域創造学部

「観光創造」コモンズ

「都市文化」コモンズ

「コミュニティデザイン」コモンズ

「地域経済」コモンズ

〒630-8258 奈良市船橋町10番地

TEL 0742-22-4978 FAX 0742-22-4991

お問い合わせは 月曜日～金曜日の午前9時から午後5時まで

<http://www.narapu.ac.jp/>

奈良県立大学大学情報誌 Vol.4 (2014年11月28日発行)

発行：奈良県立大学地域交流センター地域交流室 (TEL 0742-93-5296)